

トラウトサーモン養殖技術の開発

低水温期の短期間養殖

トラウトサーモンとは

- ・ 降海型のニジマス
(淡水魚のニジマスのうち、海へ下って大きく育つものをトラウトサーモンという)
- ・ 低水温期(冬)の海面養殖であれば、成長が早く短期間(数カ月)で養殖できる
(通常の養殖魚(マダイ、ブリ等)は、1.5年~2年程度かけて養殖)
- ・ 身のオレンジ色が濃く、身割れしにくいことが特徴



養殖トラウトサーモン
(撮影:伊勢農林水産事務所水産室)

養殖技術の開発

ポイント1: 海水馴致

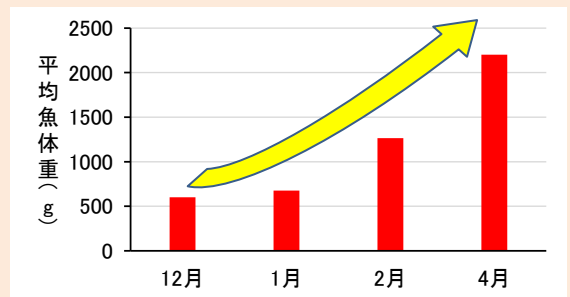
- ・ 養殖に用いるトラウトサーモンの稚魚は淡水で飼育されており、海面の養殖漁場へ導入する際に海水馴致が必要
- ・ 海面へ稚魚を導入する際は、種苗生産場からの運搬を含め2日間をかけて淡水から海水へ馴致することで、安定した生残につながる
 - ① 活魚車での種苗の運搬は、薄い海水(1/3海水)で輸送
 - ② 漁場へ到着後は、3~6時間かけて100%海水に馴致

ポイント2: 養殖に適した水温

- ・ トラウトサーモンは18℃以下の冷たい水温を好む
- ・ 養殖漁場の水温帯が9~16℃であれば、順調に成育(R4、5試験)
- ・ 養殖漁場の最低水温が16℃より高いと、生残率が低下(R3試験)
- ・ 低水温期でも水温が急激に2~3℃乱高下すると死亡が増加(R4試験)



鳥羽市の養殖漁場における冬季水温 (R4試験)



鳥羽市の養殖漁場でのトラウトサーモンの成長 (R4試験)



三重県水産研究所 尾鷲水産研究室

Mie Prefecture Fisheries Research Institute

〒519-3602 尾鷲市大字天満浦字古里215-2 TEL (0597)22-1438 FAX(0597)22-1439